

ほっかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX011-210-5826

北海道新聞ホームページ「NIE」(<https://nie.hokkaido-np.co.jp/>)でバックナンバーから閲覧できます

札幌大会、来年8月16、17日

菊池委員長「新しい学び発信」

2021年8月に開かれる「第26回NIE全国大会札幌大会」(日本新聞協会主催、北海道NIE推進協議会主管)の実行委員会設立総会が6月23日、主管社の北海道新聞本社(札幌市中央区)で開かれた。大会日程を8月16、17両日とし、札幌ゆかりのノンフィクション作家、梯(かけはし)久美子さんが基調講演する。江別高3年の今井優笑(ゆえ)さんがデザインした大会公式ロゴも発表された。

日程決定 実行委が設立総会

実行委員長には菊池安吉・同推進協議会会長が選任された。菊池委員長は「北海道の大地でNIEの種まきをし育てた成果を、全国に発信する場とした」とあいさつした。



2021年のNIE全国大会札幌大会の実施概要を決めた実行委員会設立総会

大会スローガンは「新しい学びを創るNIE」家庭、教室、地域をむすぶ。初日は、札幌文化芸術劇場hitaru(札幌市中央区北1西1、札幌市民交流プラザ内)で、開会式のほか、梯さんの基調講演やパネルディスカッションを行う。2日目は北大高等教育推進機構(同市北区北17西8)を会場に、道内の小中高約20校による公開授業と実践発表、特別分科会が予定され、アイヌ民族や日本遺産

(関連記事2、3、5面)

本年度活動を承認

推進協議会 新型コロナで書面決議

北海道NIE推進協議会(菊池安吉会長)は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2020年度総会を「書面決議」で行い、19年度活動報告や20年度活動計画案などが承認された。本年度は、新型コロナの影響で、例年10回程度開く地区セミナーの縮小が見込ま

菊池実行委員長あいさつ

北海道で2度目の開催となる札幌大会は「新しい学びを創るNIE」をスローガンに掲げ、家庭・教室・地域をむすぶ授業や実践を全国に発信する。

新型コロナ騒動が気づかせてくれた、予測困難な変化の激しい時代には、さまざまな情報を見極め、再構成して新しい価値につなげることが大切。

教材の宝庫である新聞の良さを改めて見直すこ



あいさつする菊池安吉実行委員長

とが必要だ。AI(人工知能)時代に必要な新聞活用のあり方を求め、先端技術と教育という視点からも、子どもたちの新しい学びを支えたい。

教委、公開授業や実践発表を行う小中高校など学校関係者、PTA関係者のほか、推進協加盟の報道機関各社の代表ら23人が出席。新聞協会の藤高伊都新聞教育文化部長が「北海道ならではの公開授業や実践発表に期待している」とあいさつした。総会は当初5月を予定していたが、新型コロナ感染拡大の影響で1カ月延期して開かれた。

れている。また、新任アドバイザーや、19年度積極的にNIE活動に取り組んだ実践報告表彰3校なども報告された。

(関連記事2、3、4、5面)

実践報告表彰3校は、弟子屈町立弟子屈小、旭川市立愛宕中、札幌北高。3校とも、推進協議会から表彰状が贈られた。

本年度地区セミナーは、長期の臨時休校などの影響から、1学期中の開催は見送り、8月以降の開催を計画している。

NIEアドバイザーは14人体制になる。前年度の11人は全員継続する。来年8月に札幌で開かれるNIE全国大会を見据え、池田泰弘(釧路市立北中)、山田耕平(札幌市立真駒内中)、武井翔(遠軽町立丸瀬布中)の3教諭が加わる。アドバイザー活動の「空白地域」を埋め、全道的な広がりを目指す。

公式ロゴ 江別高3年・今井優笑さん考案

今井さんデザインの大会
ロゴ



来年8月のNIE全国大会札幌大会の公式ロゴが、江別高3年の今井優笑(ゆえ)さん(17)札幌市白石区Ⅱの作品に決まった。今井さんは美術部副部長で「大会を知ってもらうため分かりやすいデザインを第一に考えました」と話している。

北海道の地図を基調に見開きの新聞を取り入れたアイデアが評価された。ロゴは北海道を青色にしたカラーと白黒の2種類。「NIE」の3文字も大きく描かれ、記事を虫眼鏡姿で読むキャラクターが愛らしい。

道内の高校生から78作品の応募があり、大賞に選ばれた。北海道NIE推進協議会の選考委員らが「よく読むというメッセージが含まれていて良い」「シンプルでわかりやすい」などと講評。ロゴは今後、大会関連の新聞紙面などを彩る。

道内高校生から公募 新聞読む姿ユニーク

今井さんはデザインの分野に興味があり、そのセンスを知る美術部の手塚昌広顧問が応募を勧めた。使い慣れたタブレット端末を駆使して作品を仕上げた。

今井さんは幼い頃、絵筆を握った経験はあるが、高校で初めて美術部に入部し研さんを積んできた。「卒業後は美術系の学校に進んで基礎を学び、将来はキャラクターデザインを描きたい」と笑顔を見せる。



応募作品が大会ロゴに採用され喜ぶ今井優笑さん

アドバイザー 全国大会へ手厚く

新任3氏を紹介

「新聞には最新情報や、いろいろな意見、思いが載っている。教科書とは違った世界の学びがある」と、NIEの魅力を活かす。NIEは15年ほどのキ



釧路・北中 池田泰弘教諭(45)＝社会

NIEの理論と実践を追究

ヤリア。生徒の社会認識の形成と学力向上を図るため、教科書の内容と関連付けながら新聞を活用する。

道教大釧路校で非常勤講師を務め4年目。講義と新聞を活用した演習を通して教師を目指す学生に授業作りも指導する。NIEを実践と理論の両面から追究していきたい。NIE実践者の育成にも関心を示す。NIE学会での発表や、学術論文もある。

日本新聞協会は本年度、新たに3教諭を道内のNIEアドバイザーに認定した。道内は14人体制となり、来年8月札幌で開かれるNIE全国大会に向け、一層の浸透を図る。

札幌・真駒内中 山田耕平教諭(43)＝社会



NIE歴は10年。「新聞は教科書と社会との懸け橋になる」と言う。地区セミナーでの公開授業や実践発表にも積極的だ。先輩教諭の助言などから、書く力、考える力を育むために新聞コラムを読み込む実践や、川柳をつくって新聞に投稿するなど多彩な取り組みを行う。

**校種の垣根超えて
協働的取り組みを**

「NIEは幼小中高の教諭、司書教諭らが垣根を超えて授業研究できる」と言い、協働的な取り組みを進めたいと意欲的だ。北海道NIE研究会研究部副部長も務める。

遠軽・丸瀬布中 武井翔教諭(30)＝国語



新人の頃から新聞記事を使った学習課題「ワークシート」を手作りし、生徒の読解力向上に力を注ぐ。新聞からは、「語彙(ごい)や幅広い知識、文章の書き方を学ぶこともできる」と言う。広域人事で赴任した旭川の中では、学校図書館資料としての新聞活用や特別支援教育でのワークシート活用

「特別支援」でも実践

NIEも経験した。地区セミナーでの実践発表も多く、実践指定校での指導経験もある。これまでの経験を生かしながら、「新聞を活用した授業や教育活動に取り組み先生の手助けをした」と話す。

十勝新聞研会長に 帯広小の早川校長



帯広小の早川一之校長Ⅱ写真Ⅱが5月、北海道十勝新聞教育研究会の新会長に就任した。前任の野上泰宏会長を支え、昨年7月に帯広で開かれた全国新聞教育研究大会を成功に導いた。

2003年度の全国新聞教育研究大会では、開催地の北九州市で国語の説明文の模擬授業を行うなどNIEのキャリアを重ねた。帯広市教委の教育研究所所長を6年間務め、教育理論の普及にも尽力した。研究会が設立され今年で30年。「力を合わせてNIEの活動を模索していくとともに、若い力を育てることもテーマにしたい」と抱負を語る。

基調講演 ノンフィクション作家 梯久美子さん



NIE札幌大会で基調講演する梯久美子さん

NIE全国大会札幌大会で、初日に基調講演する札幌ゆかりのノンフィクション作家、梯久美子さんはコメントを寄せ、世界の「いま」を切り取る新聞が歴史の姿を伝えることができるという位置づけ、「教育現場で生徒たちは過去の記事をたどる経験をしてほしい」と呼びかけている。

1961年、熊本市生まれ。5歳から札幌市で育つ。札幌藻岩高校から北海道大学文学部卒業後、編集者を経て文筆業に。2005年のデビュー作「散るぞ悲しき 硫黄島総指揮官・栗林忠道」で大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。同書は欧米をはじめ、8カ国で翻訳出版されている。

16年刊行の「狂うひと『死の棘』の妻・

大宅壮一賞を受賞 教科書に作品掲載

島尾ミホ」で、読売文学賞、芸術選奨文部科学大臣賞、講談社ノンフィクション賞を受賞。ほかに、戦争体験者を取材した3部作「昭和二十年夏、僕は兵士だった」「昭和二十年夏、僕たちは戦争」「昭和二十年夏、子供たちが見た戦争」(いずれも角川文庫)などの著書もある。

近現代史における戦争と人間というテーマを一般読者に向けて執筆し、小学校と高校の国語教科書に作品が掲載。大学や高校の入試問題にも出題されている。現在、大宅壮一ノンフィクション賞、新潮ドキュメント賞などの選考委員を務める。

昨年10月から、活動の拠点を東京から札幌に移し執筆の幅を広げている。

梯さんコメント 歴史観を養う 新聞は有用なツール

世界の「いま」を、切り取って届けるのが新聞だ。その「いま」を、長きにわたって積み重ねることで、ようやく「歴史」の姿が浮かび上がる。それができるところに新聞の価値がある。教育現場においては、児童や生徒に、日々のニュースの中

で見つけたテーマに沿って、過去の記事をたどる経験をぜひしてほしい。いま起きていることを知るだけでなく、長いスパンでものごとをとらえ、歴史観を養うために、新聞は有用なツールである。

実践報告表彰 積み重ねた実績

3校の取り組み紹介

札幌北斗高 中井一江教諭



NIE活動 校内外で紹介

札幌北斗高(明上山勝己校長)は7月10日、同推進協の上村尚生・NIEコーディネーターが訪れ、実践代表の中井一江教諭(19年度時点)に写真中央に表彰状を手渡した。同校は、図書局員が中心となつて校内外にNIEを紹介。図書室に新聞の一面を掲示する「NIEコーナー」を設置したり、校外での展覧会では、「図書局員の1日」をまとめた動画を披露するなどした。

中井さんは「最初は新聞になじみの薄かった生徒も、楽しそうに取り組んだ」と、実践指定校3年間の活動に満足そうだった。

北海道NIE推進協議会の2019年度実践報告表彰を受賞した3校は、児童生徒が新聞に親しむ工夫を凝らすとともに、授業でも効果的に新聞

を活用した。各校の取り組みと実践代表者の声を紹介する。

弟子屈小 伊藤敬子教諭



「まわしよみ新聞」 保護者招き交流も

弟子屈町立弟子屈小(大西展史校長)では7月2日、同推進協の上村尚生・NIEコーディネーターが実践代表の伊藤敬子教諭に写真手前右に表彰状を手渡した。

同小は学年を縦割りにしたグループごとに「まわしよみ新聞」を行った。記事の切り抜きを貼ったり、感想などを書き込んだりして紙面を作成。保護者を招いた交流にもつなげた。

図書コーナーに新聞各紙を常設展示するスペースも開設。伊藤さんは「新聞を見る子どもたちが増えた」と手応えを話す。

旭川・愛宕中 加藤直子教諭



新聞管理や教材化 学校図書館と連携

旭川市立愛宕中(日比野正人校長)は7月1日、同推進協の菊池安吉会長が訪問し、実践代表の加藤直子教諭に写真左から2人目に表彰状を手渡した。

同校では1年生から新聞記事の読み方などを学ぶ。昨年12月には新聞社の企画する「道内10大ニュース」選定にも生徒がかわった。日常的に学校図書館が新聞各紙の管理や教材化に努めており、加藤さんは「図書館が使いやすいようにしてくれたい」と連携を実績に挙げた。学校図書からは新聞社のデータベースの充実を求める声もあった。

北海道NIE推進協議会（菊池安吉会長）主催の本年度地区セミナーは、新型コロナウイルスの感染拡大による全道的な臨時休校が影響し、例年の3分の1以下の3回となる見通し。

地区セミナーは近年、全道的な北海道セミナーを含め、道内各地の学校を会場に10回程度開催している。道内では今年2月下旬から断続的に臨時休校が続き、本年度に入っても多く

の学校が5月末まで休校するなどした。また、休校による学習の遅れを取り戻すため、夏の長期休暇の期間を短縮する学校もあり、セミナー開催を大幅に見合わせた。

地区セミナー（会場・日程未定）と第18回十勝地区セミナー（同）を予定。

また、来々年8月札幌市で

開かれるNIE全国大会の
公開授業に向けた研修会を
北海道NIE研究会との共
催で計画している。

年、全道から60～80人が参加する同協議会が主催する最大のセミナー。

最大のセミナー。
今回は、胆振第

新型コロナウイルスの影響で、北海道NIE推進協議会は、8月に予定していた第6回北海道セミナーを

セミナーは道内の教育、新聞関係者などが参加し、講演やワークショップを通して、NIE活動の推進を目的に毎年開いている。例

この回には、肥後管内白老町のアイヌ文化復興拠点「民族共生象徴空間（ウポポイ）」のオープンもあり、アイヌ民族に関する講演やワークショップから「アイヌ教育」について学び、理解を深める予定だった。

N-1 实践奮闘記

北海道岩見沢高等養護学校教諭 曳田 和樹

今回、原稿執筆の話をい
た。前の出来事がきつかけでし
た。た
だき、NIE通信のバツ

前の出来事がきっかけでした。

「先生、これを学んで何になるんですか」。現代社会の授業中にある生徒が発言してきました。当時、教

学校の学習と実社会をつなぐツールが何か必要だ」と感じました。知り合いの先生に相談したところ、ある研修会に誘っていただきました。それがNIEとの出会いでした。

実践初年度は、「新聞に慣れ親しんでもらう」こと

[illegible]

るだけではだめでした。新聞は文字が小さいため、視覚認知に偏りがある生徒や、知的障がいを持つ生徒には読みづらく、どうしても関心を持ちにくいものとなってしまいました。新聞は情報量も多く、言うならば、情報の洪水のなかに生徒を溺れさせてしまっていたのかもしれない。

そこで、必要な情報を整理要約し、コピーして文字を拡大したり、読み仮名を振ったりするなど工夫を加えることで、新聞への興味を持ちやすくすることがで

な取り組みではあります
が、今後は、情報のユニバ
ーサルデザイン化を図るこ
とで、誰もが新聞を身近
に感じられる環境をつくっ
ていきたいと考えていま
す。

高校生は昨今、「18歳選
挙権」や2年後の成人年齢
の引き下げなど、社会や政
治経済に関わることも増え
てきました。新聞を使っ
て取り組みの中で、主権者
として情報を読み取り、自
ら考え行動できる生徒を育
成することができればと考
えています。

すが、現在行えていることをつづりたいと思います。気楽に読んでいただければ幸いです。



Dr. Y. Kikuchi

本校は、肢体不自由のある生徒が通う道内で唯一の専門学科を設置する高等養護学校です。高等学校に準ずる学校であり、全道一円からおよそ60人の生徒が在籍し、大半の生徒が敷地内にある寄宿舎で生活しています。

師生活1年目だった私は、返す言葉に窮してしまいました。今思うと、教科書の学習が社会とどうつながっているか、実感が湧きにくかったのだと思います。このことをきつかけに、「学

をテーマにしました。生徒用玄関横にある学校図書館前にホワイトボードを設置し、新聞社の電子版から記事を選び、掲示することから始めました。

自分が担当するクラスの30人ほどの生徒に聞いたところ、ほとんどの生徒が新聞を日常的に読まないとい

うことが分かりました。ただ、見方を変えれば、寄宿舎生活をしているからこそ、経済的に問題なく、新聞を読むことを「当たり前」にすることができ、主体性を育む上での強みになるのではないかと考えました。

そのためには、新聞記事をそのままボードに掲示す

学習と実社会つなぐ／新聞をもっと身近に

きました。

生徒から「先生、次の更新まだですか」とか、「もっといろいろな種類の記事が読みたい。新刊図書購入希望で新聞って買えないんですか」といった、うれしい声が聞かれるようになってきました。

まだ初歩の初歩で、簡単

本年度は実践2年目。NIE実践指定校にも認定していたできました。「現代社会」を中心とした授業の中で、新聞を用いた探究的活動にも取り組んでいきたいと考えています。昨年度、種をまいた活動が実り多きものとなるよう推進していきたいと思います。

公開授業者 全国大会へ初顔合わせ



全国大会の授業者が初顔合わせした「第1回全体会」

授業づくりの視点説明

NIE札幌大会に向け「全体会」

来月8月のNIE全国大会札幌大会で、公開授業を担当する教諭の初顔合わせとなる「第1回全体会」が6月26日、北海道新聞本社で開かれた。本番に向け、上村尚生・NIEコーディネーターが、授業づくりの視点を説明するとともに、指導案の構成案などを紹介した。

全国大会の主管団体である北海道NIE推進協議会(菊池安吉会長)が開き、授業者に委任状が手渡された。

上村尚生コーディネーターは、大会スローガン「新しい学びを創るNIE」家庭、教室、地域をむすぶを踏まえ、授業づくりの三つの視点を示した。NIEを実践面からだけでなく、理論面からも構築する狙いで、「言語活動・体験的な活動等を取り入れた学習」

「北海道の特色を活かした、家庭・教室・地域等が連携した学習」「次の学びへのステップにつながる新聞を活用した学習」について説明。指導案の構成については、「新しい学び」との関連などについて話した。

公開授業を担当する教諭のNIE歴はさまざま。NIE歴10年の男性教諭は、「どんな化学反応が起きるのか楽しみ」と話していた。菊池会長は「みなさんの授業づくりをバックアップしたい。全国大会では、北海道の先生の頑張りをみてもらおう」と述べた。

同協議会では冬休みごろ、公開授業者に加え、実践発表を行う教諭にも呼びかけて「全体会」を開くことにしている。

「実践報告書」19年度版発刊

北海道NIE推進協議会(菊池安吉会長)は「教育に新聞を」の2019年度実践報告書を発刊した。写真Ⅱ。小中学校から高校、大学まで実践指定39校の活動をまとめている。優れた



取り組みに贈る実践報告表彰の3校も決まった。新聞提供を受けながら活動した各校のNIEの実践例を校種別に掲載。実践報告表彰の3校は弟子屈町立弟子屈小(代表・伊藤敬子教諭)、旭川市立愛宕中(同・加藤直子教諭、札幌北斗高(同・中井一江教諭)が選ばれた(教諭名は19年度時点。ともに各学校の教育課程に沿いながら、NIEを連携して進めたことが評価された。弟子屈小は学年横断的にまわしよみ新聞を作るなど活動。愛宕中は新聞記事を国語や社会の授業で効果的に使い、札幌北斗高は図書局の自主的な運営を動画にするなど指定校3年目の活動を校外に発信した。A4判。160ページ。教師向けに無料配布している。

道内実践校、本年度36校

新規 岩見沢高等養護など10校

日本新聞協会は7月8日、2020年度のNIE実践指定校535校(前年度比10校減)を了承した。北海道は前年度より2校少ない35校となった。21年度にNIE全国大会を開催する北海道には22年度まで「全国大会枠」として5校が付与されている。都道府県別では、東京都の40校に次

いで2番目に多い。道内の新規認定校は、特別支援学校として初めての岩見沢高等養護学校など10校。

また、北海道NIE推進協議会は独自に1校(前年度比1校減)を認定。道内の指定校は、新聞協会枠と独自枠を合わせ、前年度より3校少ない計36校となった。表参照。

実践指定校は一定期間、新聞各紙が無償で提供され、授業などで活用

【日本新聞協会認定】

<小学校>

室蘭市立白蘭小学校
登別市立富岸小学校
夕張市立ゆうばり小学校
幕別町立札内南小学校
弟子屈町立弟子屈小学校
安平町立追分小学校
岩見沢市立中央小学校
札幌市立手稲宮丘小学校
札幌市立ひばりが丘小学校
★室蘭市立八丁平小学校
★旭川市立末広北小学校
★札幌市立伏見小学校

<中学校>

鹿追町立鹿追中学校
音更町立緑南中学校
小樽市立北陵中学校
札幌市立あいの里東中学校
函館市立臼尻中学校
むかわ町立鶴川中学校
岩見沢市立栗沢中学校
札幌市立新川中学校
富良野市立樹海中学校
★札幌市立もみじ台中学校
★札幌市立藤野中学校
★むかわ町立穂別中学校
日高町立門別中学校

<高校>

北海道函館西高校
札幌新陽高校
北海道豊富高校
北海道札幌手稲高校
星槎国際高校帯広学習センター
北海道札幌月寒高校
★北海道岩見沢高等養護学校
★北海道科学大学高校
★北海道野幌高校
★北海道南幌高校

【北海道NIE推進協議会独自認定】

<大学>

北翔大学短期大学部

コロナ禍の報道



多くの町民や鉄道ファンが見送るなか、新十津川駅を出発するJR札沼線の最終列車(4月17日、新十津川町で)

鉄道廃止で感じた「原点」

読売新聞北海道支社編集部長 森 昭雄

月17日に変更され、住民向けラストランは中止された。「再前倒し」のニュースが飛び込んできたのは前日の16日夜という慌ただしさ。人々の思い出として残るべき最終運行が感染拡大のきっかけになってはならないという強い危機感が同社にあったのは間違いない。

最終運行の当日、4月17日。本紙は夕刊全国版社会面で、急きよ集まった沿線住民らが

リレーエッセー
多紙彩々

2月から札幌で仕事をして

いる。着任以来、紙面展開の中心は言うまでもなく新型コロナウイルスの感染拡大問題だ。医療、経済、観光、文化、スポーツなど、私たちの暮らしの中でコロナの影響を受けていないものを見つけるのは難しい。本紙はもちろん、新聞各紙は連日多くの紙面を割いてコロナ問題を報道している。

そんなコロナ関連のニュースの中で、個人的に強く印象に残っているものの一つが、JR札沼線北海道医療大学・

新十津川間(47・6km)の廃止だ。利用者の減少で、5月7日で廃止されることがコロナ禍以前に決まっておりましたが、前日の6日が通常運行の最終日となった。大勢の鉄道ファンが乗車すると予想されたことから、混雑してコロナの感染が拡大するのを防ぐため、JR北海道は大型連休中は一部を全車指定席とすることにした。

しかし、最終運行は4月24日に前倒しになり、沿線住民向けに4月27日に「ラストラン運行」を行うことになった。その後、さらに最終運行は4

手を振って見送るなか、新十津川駅を出発する列車のカラー写真とともに最終運行の様を伝えた。翌18日付朝刊の北海道内版でも、長年人々に親しまれた鉄道の「最後の日」を丁寧に報じた。

朝刊の記事では、新十津川駅の近くに住む87歳の女性の「子どもの頃、出征する兵隊さんを見送るなど思い出が詰まった駅」という声が紹介されている。多くの人が札沼線に乗ってふるさとを後にし、戦地へと赴いた。みんな無事に還ってきたのだろうか。二度とふるさとを踏むことはなかった人もいたのではない。現場の記者がすくい上げた短い言葉からも、想像は無限に膨らんでいく。

鉄道は単なる輸送手段ではない。地域の歴史をつくり、住民の暮らしを支える。それを使う人にとっては、生活の一部と言ってもいい。札沼線の沿線住民にも、札沼線とともに紡いできた歴史が一人一人にあるに違いない。今回、廃止を前に、自分だけのかけがえのない思い出をかみしめ、札沼線ときちんとお別れしたい、最後をしつかり見届けたいと願った人も多かったことだろう。

しかし、新型コロナウイルスは人々のそんなささやかな思いを打ち砕いた。別れは突然訪れた。人々が思い出を慈しみ、ともに過ごした時間を静かに振り返る暇もなく最終列車は出発し、住民はラストランの機会を奪われた。せめて本紙の記事が、人々が札沼線を記憶にとどめるよすがとなったことを信じていたい。

新型コロナウイルスを巡る報道は今後も続くだろう。「新しい生活様式」「新北海道スタイル」が唱えられ、本紙も新たな動きを日々追いかけている。だが、新しくもたらされるものの一方で、失われていくものもある。失われたものに人々が寄せる愛惜と追憶、新たな動きに人々が抱く不安と期待。その双方をしつかりとらえ、記録することが新聞の大仕事な役割だと思ふ。改めて気を引き締めて、日々の仕事にあたっていきたい。

編集後記

○…北海道の学校は、全国に先駆け、2月下旬から新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休校となった。新年度の学校生活は当初から翻弄(ほんろう)され、高校に入学した長女は「高校生になった気がしない」とこぼした。多くの人が同じような思いをしたらどう。学校は再開したが、「日常」を取り戻すにはまだ時間がかかりそうだ。

○…今号は通常より2割増やして道内のNIE活動を紹介したが、ここにも新型コロナウイルスの陰がちらつく。来年の全国大会への影響も気になるところだが、準備作業は足踏みする

ことなく、多くの関係者の理解と協力を得ながら進められた。今後のNIE活動は、全国大会につながる、いつも以上に充実したものにならないといけない。

○…新型コロナとの「戦い」は長くなるという。社会はこれから、「新しい生活様式」が一層浸透するだろう。NIE活動にも「ウィズコロナ」の視点が必要になるかもしれない。

○…全国大会は参加者の安心安全はもちろんだが、公開授業や実践発表を通して、北海道から全国に「新しい学び」を発信することも一つのテーマ。大会まで1年。知恵を絞っている。(坂)

「いっしょに読もう」コンクール作品募集

日本新聞協会は、第11回「いっしょに読もう!新聞コンクール」の作品を募集している。対象は小中高校生と高専生。

昨年9月9日(今年9月8日)の新聞から興味を持った記事を切り抜き、家族や友人と話し合っ感想や意見などを所定の応募用紙に記入する。応募用紙は新聞協会のウェブサイト(<https://nie.jp/>)からダウンロードできる。

学校単位のほか、個人でも応募できる。応募、問い合わせは〒060-8711(住所不要)北海道新聞社NIE推進センター内の北海道NIE推進協議会事務局まで。☎011-210・5802。9月9日必着。